



# 軽妙にしなやかに 大津絵の世界が お座敷によみがえる。

大津の旧東海道筋で、旅人に土産物として売られていた民画「大津絵」。その画題の登場人物を詠みこんだ大津絵節にあわせ、花街の芸妓たちが軽妙な振りをつけてお座敷で披露したのが「大津絵踊り」。花街の衰退とともに継承者が少なくなったという「大津絵踊り」の保護・伝承に取り組み保存会の皆さんを取材しました。

## ●大津絵踊り

# 昨

年11月4日、大津市伝統芸能会館でNPO法人「大津絵踊り保存会」(会長・近藤功さん)の第4回定期公演が催された。

唄と三味線の伴奏で、小学生や成安造形大学演劇部の学生、主婦を中心としたお稽古グループが、着物姿で日頃の練習の成果を発表。とりには柴屋町(現在の長等地区)の芸妓たちで結成された保存会メン

## 「藤娘」から「弁慶」まで 大津絵に描かれた 登場人物が舞台上に舞う。

バーが登場し、本格的な舞が披露されると、会場から大きな喝采をあげた。

元唄に振りをつけ、花街のお座敷芸として受け継いできたのが大津絵踊りである。

大津市に古くから伝わる伝統的な民画「大津絵」は知っていても、大津絵踊りを知っている人は意外と少ない。大津絵踊りはその名の通り大津絵の画題を踊りにしたもので、ルーツは19世紀はじめに大津の花街で唄われた大津絵節。その後、地方に伝播する過程でそれぞれの地域に即して民謡化され、全国的に流行したという。

舞台では、3人(または4人、5人)の踊り手が、大津絵節の歌詞にあわせて10種類の面を付け、代わる代わる踊る。曲は5分程度で、構成はきわめてシンプル。鷹を腕にのせた若衆は凛々しく、藤娘は艶やかに、犬にからまれた座頭が慌てている所作はユーモアたっぷり。

「歌詞はまったく違いますが、大津絵節の名のまま全国28府県で伝承されています。これはすごいなあと思います。ごいなあと感じましたね。歴史ある大津絵節の地元としてよほどしっかりしなげればと、伝統文化を守る責任を痛感しました」と会長の近藤さんは話す。

踊りを指導するのは茶屋「山下」の女将で「大津絵踊り保存会」代表の山下光子さん。「芸妓の踊りにはいろいろありますが、お面を付ける踊りも他にはないそうです。お面を替



りとは日本中

大津絵節の元唄は、藤娘や釣鐘弁慶、鬼の寒念仏など大津絵を代表する画題10種を詠みこんだもの。明治時代に入り柴屋町の芸妓たちがこの

見ながら大津絵の人物がくるくる入れ代わるところが、ひじょうに変化があつて楽しい」と、その魅力を語る。1998年には大津市の無形民俗文化財に指定された。

### 大津絵とは…

芭蕉の有名な句に「大津絵の筆のはじめは何仏」とあるように、大津絵はもと仏画より始まり、大衆の信仰の対象として阿彌陀仏や十三仏、地藏など、数多くの神仏が描かれたという。のちに風俗画や風刺画が描かれるようになり、江戸時代には大津の大谷・追分街道の土産物として販売され、また護符として庶民に広く愛されるようになった。明治以降は衰退の兆しがあったが、初代高橋松山をはじめとする絵師たちが大津絵を復活。現在は四代目高橋松山師と五代目信介氏が大津絵を継承している。



大津市伝統芸能会館の定期公演より(左が鷹匠、右が藤娘)。



大津絵踊りの伝統を守る保存会のメンバー、大津市柴屋町の芸妓たち。



特定非営利活動法人「大津絵踊り保存会」会長の近藤功さん(左)と代表の山下光子さん(右)。

# か

つて花街として  
栄えた柴屋町  
も、今は代表の  
山下さんが営  
む茶屋1軒だ

けに。「伝統ある大津絵踊りを家  
だけでも残していけないと」。山  
下さんは危機感を隠せなかったと  
いう。

「お座敷がなくなると、芸妓たち  
が磨いた芸を披露する場、評価し  
てもらう機会がなくなります。花  
街自体の存続が困難な時に、そこ  
で生まれた芸を続けていくことは、  
それ以上に厳しい環境にある」と  
会長近藤さん。

そこで一般の市民にも門戸を開  
き、郷土の踊りを広く知ってもら  
うために、1988年に「大津絵踊り  
保存会」が組織され、2004年に  
NPO法人化された。現在、大津  
市伝統芸能会館で月2回の稽古を  
重ね、昨年9月からは地域の小学  
校へ赴き児童にも指導している。

今回、大津市伝統芸能会館の稽  
古場を訪ねてみた。指導を受けて  
いるのは習い始めて1〜3年の市  
民の女性グループ。画題によっては  
踊りに得手不得手があるのか、手  
の位置、足の運び方、小道具の握り  
方など、山下さんから細かいアドバ  
イスが与えられる。

「ただ踊りのかたちをなぞっても  
上手にはなりません。基本は普段  
の行儀作法、そして大切なのは踊る

## 花街文化の香りを通した 保存会の活動を通して 次代に引き継ぐ。



面は裏に口でくわえるための突起のついた「くわえ面」。面を付けると視界もほとんど遮られる。

# 大津絵踊りで着用するお面

大津絵10種から

江戸後期(文化・文政の頃)、大津絵は美人画、風刺  
画などから画題を10種に絞り、もっぱら護符とし  
て売られていたという。大津絵節の元唄はその10種  
の絵をモチーフにして詠みこんだもので、大津絵踊  
りでは10種の面を使い分けて舞が演じられる。

### ●鬼の寒念仏

【おにのかんねんぶつ】

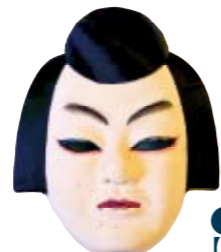
鬼が僧衣をまとい偽善者の姿を表す代  
表的な画題。道歌「慈悲もなく情けもな  
く念仏をとふる人の姿とやせむ」と  
の風刺は強烈。角が一本折れているの  
は、鬼の自責の念を示したもので。



### ●鷹匠

【たかしょう】

今ならイケメンと呼ばれる若衆は江戸期で  
人気の高い絵柄。大津絵では鷹の使い  
手・鷹匠として描かれている。遠くの獲物  
の音に聞き耳を立てているのか、その表  
情は凜々しい。



### ●槍持奴

【やりもちやっこ】

大名行列の先頭を  
威勢よく毛槍を  
振って歩く奴(やっ  
こ)を描いた風俗  
画。大名の権力をか  
さに威張っている様  
子が道化のようで、  
「虎の威を借る狐」の  
風刺も込められている。



### ●外法の梯子剃り

【げぼうのはしござり】

外法(長頭翁)は身の  
丈が低く、長い頭に  
白髭が特徴。外法の長い  
頭に梯子をかけ、大黒  
天が髪を剃るというほ  
のぼのとした図。大黒  
(福)が登りつめると長  
寿の神が倒れるという  
風刺。



### 「大津絵節」(元唄)

- 外法の 梯子剃り
- 雷 太鼓で 釣瓶とる
- お若衆は 鷹を持つ
- 塗笠お女郎かかたげた藤の花
- 座頭のふんどしを犬ワンワンつきや
- びっくり仰天し 腹立ち杖をばふり上げる
- 荒気の鬼も発起して 鉦撞木
- 瓢箪なまずを しっかりおさえます
- 奴さんの尻ふり行列
- 向ふハ巻釣鐘弁慶
- 矢の根五郎



### ●釣鐘弁慶

【つりがねべんけい】

合戦で寺の鐘を分捕って  
帰ったという弁慶と三  
井寺にまつわる伝説をも  
とにした画題で、向こう鉢  
巻姿の弁慶の面は力持  
ちの象徴でもある。



### ●矢の根[やのね]

武勇に長けた曾我五郎・十郎兄弟の仇討ちを画題に  
した人気が高い武者絵で、絵はやじりを研(と)いで  
いる図。面は歌舞伎の隈取(くまどり)をしたような猛々  
しい表情が特徴。

### ●座頭[ざとう]

座頭に犬に赤いふんどしを銜(くわ)えられ、杖を  
振り上げて慌てている滑稽な図。お上がだらし  
ない政(まつりごと)をしていると下(民衆)に騒  
がれるという風刺。



### ●藤娘

【ふじむすめ】

大津絵の数ある美人画の中でもひととき人気が高い画題。娘(お女郎)  
が黒の塗り笠に藤つきの衣装で、たわわな藤の房をかざしながら舞う豊  
艶な姿が美しい。



### ●瓢箪なまず

【ひょうたんなまず】

老僧が瓢箪を手に鯨を押さえよ  
うとする禅画をもとに、大津絵で  
は老僧が猿に置き換えられてい  
る。つかみどころのない人の心を  
猿知恵にかりてユーモアたっぷ  
りに描いたもの。

### ●雷の太鼓釣り

【かみなりのたいこつり】

雲の上の雷公が大事な商  
売道具の太鼓を水に落し、あわてふためて錨(い  
かり)で釣り上げようとする  
滑稽な姿を描いた風刺画。  
人々の日常茶飯事の油断  
を戒めたもの。



## DATA

### 特定非営利活動法人「大津絵踊り保存会」

大津市長等2丁目8-18 ☎077-525-6078

1988年、大津絵踊りの保護、継承者の育成  
および普及の目的で設立。90年しがブルー  
レーク賞、95年第43回大津市教育功労者  
功労賞受賞。98年に大津市の無形民俗文  
化財に指定。2001年に第26回滋賀県文化  
奨励賞を受賞。04年10月、NPO法人化。大  
津市伝統芸能会館での定期公演のほか、  
さまざまなイベントに参加。

●稽古日/毎月第1、第2土曜日(大津市伝統芸能会館)  
※一般見学可



### 大津市伝統芸能会館

大津市園城寺町246-24 ☎077-527-5236  
http://www.dentogeinokaikan.net/

1995年5月、大津市の伝統文化の発信拠点として  
オープン。館内には、能楽をはじめ、邦楽、舞踊  
などに幅広く活用できる217名収容の本格的な  
能楽ホールや、茶道、華道、舞踊教室などに利用で  
きる和室がある。能・狂言の公演や稽古をはじめ、  
さまざまな芸能活動の普及のため、多くの方々が  
伝統芸能に親しめる機会と場を提供している。



●休館日/月曜日(祝祭日・振替休日の場合は開館、翌日が休館)、  
祝祭日の翌日(土・日曜、休日を除く)、年末年始(12月27日~1月5日)



稽古に励む新人芸妓の久保華世子  
さん。10代の芸妓は15年ぶりとか。



三味線を演奏する山下光子さん。大津  
絵節の元唄を聴かせていただいた。



踊りのお稽古は月2回。普段は面を付けずに稽古している。

前の心構え。そういうのが  
身に付いていると、日本  
人のしとやかさは自然と  
仕草に現れてくるもので  
す」と山下さん。  
登場人物を踊り分け  
るのも大変だが、さらに  
面を付けると目穴がず  
れるため、視界もほとん  
ど遮られるという。優雅  
に見える大津絵踊りの難  
しさを垣間見たような  
気がする。

「今後もさまざまな場  
所で踊りを披露してい  
きたい。大津の伝統芸能に  
ふれたいというお客さま  
に、地元がすぐに提供で  
きるような体制づくりも  
必要だと思います」と会  
長の近藤さんは話す。

昨年7月には花街文化の後継者  
と期待される19歳の新人芸妓が誕  
生した。お座敷を務めながら踊り  
の稽古に励む地元出身の久保華世  
子さんは「稽古は厳しいけれど、そ  
の中に楽しさがあります。周囲の  
期待が高いので不安も多いですが、  
伝統文化は絶やしたくない。いつか  
は私も一人前の芸妓になりたいと  
思っています」と話してくれた。  
花街という環境の中で大切に受  
け継がれてきた伝統文化は、輝き  
を失わず今も人の心の中で息づい  
ている。